

手をつなぐ

題字 藤本利夫書

〈1988年7月9日創刊〉
 発行 2014年4月1日 〈毎月1日発行〉
滋賀県民主教育研究所
 〒520-0052 大津市朝日が丘1丁目
 11-3 教育文化会館2F
 TEL & FAX 077-525-5364
 教育110番 077-523-3715
 e-メール shiga.minken@gmail.com
 HP: http://shiga-minken.jimdo.com/
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)
 ①ゆうちょ銀行/記号番号 01070-5-40576
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座 511256
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

フェアプレー

山内彰



先日、こんなニュースを読んだ。「ドイツサッカーの岡崎選手がゴールした。しかし、手に当たっていたのでレフリーはゴールを取り消した。試合後岡崎選手は、相手ゴールキーパーに謝罪した。キーパーは、その時に言つて欲しかったと言った。」という記事である。たとえ自分達に不利であっても「今のゴールは手に当たっていた。ファールだよ。」と言ふべきだった。それがフェアプレーの精神からすれば当然だ。サッカーの試合の解説で、「あそこで抜かれたら失点につながる。今のファールは仕方ない。よく止めましたね。」といった声を聞く。ファールすることを褒めていいのか。故意のファールは余計に恥ずかしいことのはずだ。抜かれたりなかったら、守り方を工夫し、抜かれない技量を身につけろ!

プロ野球でブラゼル選手がフライを打ち上げた。セカンド、ショート、センターの間に落ちる打球をセカンドが捕球した。よく見るとワンバウンドして捕っていた。しかし「ダイレクトでキャッチした」とアピールし、審判はそれを認めた。抗議されたが、判定はそのままであった。センター、ショ-

ートの選手は、私は知らないという態度だった。本場にダイレクトキャッチしたなら大いにアピールすればよい。でもワンバウンドなら、素早く次のプレーに移るべきだ。ダイレクトでとつたと審判を欺くことはアピールプレーでなく、嘘つき、ごまかしそのものである。フェアに競い合つてこそスポーツだ。だからこそ教育の場で果たす役割も大きい。

我が国は、3・11大震災で大きな被害にあった。そして原発がこの上なく危険なものであり、核廃棄物の処理は人智の及ぶところではないことが明らかになった。今も手がつけれない状態が続く大勢の人が避難したままだ。だから原発ゼロを求め、少なくともその方向でのエネルギーの転換を多くの国民が望んでいる。ところが、「原発事故が収束し、汚染水は、コントロールされている」と世界に向かって嘘をつき、何の恥じらいもない人間が国のトップに座っている。再稼働、原発セールスに至つては、開いた口が塞がらない。

他にも、主権者である国民に真実を覆い隠そうとする秘密保護法、根拠もなく

《 今月の紙面 》

- ・フェアプレー 山内彰 1p
- ・〈2013年度滋賀民研 研究集会特集〉... 2~5p
- ・①福田誠治氏の講演「子どもたちの豊かな学びを支援する教育へ (前篇)」..... 2・3p
- ・②シンポ「青年・子どもが学習意欲を持つ学習とは」..... 4・5p
- ・A 高等学校における「特別支援」に関する現状と課題 6p
- ・第19回登校拒否・不登校問題 全国のつどい 7p
- ・滋賀の教育動向 (1・2月) 8p

聖域は守ると嘘をつき参加しているTPP、辺野古に強引に新基地をつくらうとする住民意思の無視、消費税アップと法人税減税、侵略戦争を肯定、美化する靖国参拝と歴史の逆流、大本営発表放送を是とするNHK会長・・・等々、圧倒的多数の国民の声と真逆の政策を進める国、一体この国はどうなってるんだ。

嘘とごまかしのないフェアプレーの精神が当たり前な社会、それは、憲法がいう「国民が本当に主人公の社会なんだ」と、つくづく思う。

腹の立つことばかり故
前を向く